

1996年10月12日

ディケンズ・フェロウシップ日本支部

さる10月12日(土)に、新年度(1997年度)のディケンズ・フェロウシップ日本支部の総会が、東京女子大学の善福寺キャンパスにて開催されました。あいにくの曇天でしたが、全国各地から約50人の参加者が集まり、なごやかな午後のひとときを過ごしました。当日の議事、催しなどについてご報告いたします。

1 総会議事

総会は小池滋支部長の司会で議事が進められました。

1.1 会計報告

次年度への繰越し金が昨年度より約40万円弱多くなっています。これは寄付などの特別維持費による部分が多いので、来年度の会費は現行の6,000円に据え置くべきことが決定されました。なお、会計報告の際に配布された明細書の数字が誤っていることが指摘されました。収入金額の合計額が60円少ないというものでした。早速調査したところ以下の理由であることが判明しました。全ての計算が終了したあとで総会用の明細書を作成しました。その際、1995年度の報告書のファイルを利用したのですが、95年度の会費として703,060円が計上されていたので、これを855,000円と書き換えるべきであったのですが、上の方の桁の数字のみ訂正して、末尾の'60円'の部分の訂正を忘れた結果、855,060円としてしまったようです。つまり計算のミスというよりは清書の際の(問題箇所のみ)の転記ミスであったということになります。したがって総計などに関しては当日の明細書のものが正しく、かつ、郵便局の振込明細、領収書などの資料をそえた間先生の監査でも確認されているので、'会費'の項目の数字のみ訂正させていただきます。このような不手際の生じたこと、重ねがさねお詫び申し上げますとともに、会員各位のご寛恕をお願いするしたいです。なお、正しく修正した報告書を同封致しますので御覧ください。

1.2 本年度の予定

本年度のディケンズフェロウシップ春季大会についてはまだ未定です。開催場所をお世話いただける場合、また講演・研究発表などをご予定の方は是非事務局または理事の方々にお申し出ください。

1.3 DICKENSIANについて

一昨年度の『ディケンジアン』1994年Winter号がアクシデントにより110部しか届きませんでした。その埋め合わせとして最近40部が新たに送られてきました。当該年度の会員の方々にご迷惑をかけることはなかったと思いますが、その年に会費をお送りになった方で、万が一この号だけが届いていないという方がおいでの場合は御連絡ください。すみやかに送付させていただきます。

2 総会プログラム

3人の熱心な研究者による講演が行われました。三者三様、それぞれユニークな視点からディケンズの作品に迫ろうというもので、質問などの時間があまりとれなかったことがかえりませんがえすも残念でした。

2.1 「見えてくるアメリカ ブリタニア号のディケンズ」

まず最初は成蹊大学の川澄英男先生が、ディケンズの *American Notes*、書簡集、同行者の手記、現地の新聞記事などを総合することにより、ディケンズのアメリカ体験を詳細に描きだされました。

2.2 BLEAK HOUSEにおける「読むこと」 時間・テキスト・主体

二番目は、神戸市外国語大学の新野緑先生の講演でした。“Chancery”をめぐり、世界、Lady Dedlockをめぐり、世界に共通するのは「不在の意味を見出そう(読みとろう)とする無為の努力」であり、その努力を不毛のものでなくするのは自己を相対化できる能力であるというような趣旨でした。

2.3 「なぜディケンズはビデオ化されるのか? 小説と映像」

最後は金城学院大学の楚輪松人先生が、ディケンズと映像メディアの関係についての、詳細な研究成果を発表されました。「映像化されることによって作品の意味が新たに明確になることがある」ということを *Little Dorrit* の例を用いながら説明されました。

3 懇親会

恒例の懇親会が6時より「こけしや」で開かれました。参加者は30名ばかり、アルコールの影響下本音を出しながら、昼間の講演のさいの時間不足をここでとりもどすべく、歓談に花の咲いた2時間ほどでした。

4 連絡事項

「会報」(第19号)を同封いたします。また本部から *DICKENSIAN* の今年度第2号が届いているので、昨年度会費納入者には同封しています。

5 会費納入のお願い

フェロウシップの会計年度は10月に始まります。本部発行の *DICKENSIAN* の購読予約数は会費を納入された方の数で一括して本部に送金しますので、会費の納入がおくると申込の時期を逸することになりかねません。同封の振替用紙でできれば年内をメドに送金いただければ幸いです。会費は上にも書きましたが、昨年度と同じ6,000円です。

では、またお目にかかれる日を楽しみに!